

授業概要

美術教育の歴史的な変遷をたどることで、初等教育における図画工作科の意義を理解する。また学習指導要領を読解することを通して、現代の小学校図画工作科の目的・内容・全体構造を理解する。以上の理解に立って、表現や鑑賞の各領域に関わる活動内容の具体的なあり方を検討する。また、授業計画の作成方法や評価のあり方などについて学習したうえで、実際に学習指導案を作成し、模擬授業と振り返りを行うことを通して、児童が主体的に関わることのできる魅力ある授業づくりを考えられるよう講義する。

授業計画

第1回	授業ガイダンス；図画工作科はなぜ必要か？
第2回	戦後美術教育の取り組み
第3回	現代の図画工作科が目指すもの；学習指導要領の読解（目標、内容、全体構造）
第4回	模擬授業実施についての説明、グループ分け、学習指導案作成課題出題
第5回	図工科の内容と指導①「造形遊び」の目標と内容について
第6回	図工科の内容と指導②「絵・立体・工作に表わす」活動の目標と内容について
第7回	図工科の内容と指導③「鑑賞」活動の目標と内容について（情報機器の活用を含む）
第8回	授業計画の作成方法と評価のあり方について
第9回	模擬授業及び振り返り①A班
第10回	模擬授業及び振り返り②B班
第11回	模擬授業及び振り返り③C班
第12回	模擬授業及び振り返り④D班
第13回	模擬授業及び振り返り⑤E班
第14回	現代の図画工作科の授業の実際（映像視聴）
第15回	「主体的・対話的な深い学び」を促す授業改善へ向けて（まとめ）
第16回	学期末試験

到達目標

- ・初等教育における図画工作科の意義を理解することができる。
- ・小学校図画工作科の目標、育成を目指す資質・能力を理解することができる。
- ・図画工作科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めることができる。
- ・様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。

履修上の注意

遅刻3回で欠席1回として扱う。特別な理由がない限り30分以上の遅刻は欠席扱いとする。評価対象となる提出物や取り組みは、授業内でのコメントペーパーや学習指導案、模擬授業への参加や話し合い、模擬授業の振り返り等、授業に参加しなければ作成できないものばかりなので、特別な事情がない限り欠席しないよう心がけること。授業中の無断途中退出、私語や携帯電話の操作など、学習態度としてふさわしくない行為はしないように。

予習・復習

事前学習は、授業内容に関連するテキストを読み、疑問点を明らかにするよう心がけること。事後学習は、授業内容を整理した上で、ポイントとなる点について自分なりの考えをまとめておくこと。

評価方法

提出物及び模擬授業と振り返りレポート 70% 学期末試験 30%の割合で評価する。

テキスト

- ・教科書名：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説―図画工作編
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：日本文教出版
- ・出版年（ISBN）：978-4-536-59011-2